

〔目 次〕

（作成経緯）	3
【参考 HP】	5
【関連 HP】	9
十一訂稿はしがき	11
十訂稿はしがき	11
九訂稿はしがき	11
八訂稿はしがき	12
七訂稿はしがき	12
六訂稿はしがき	12
五訂稿はしがき	13
（四訂版に当たりて）	14
（三訂版に当たりて）	14
（二訂版に当たりて）	15
（改訂版に当たりて）	15
はじめに（初版）	16
1 略年譜	17
2 著作目録	19
（1）訳書	19
（2）論文・邦訳	20
（3）講義録	24
（4）試験問題	26
（5）その他	27
（6）書簡	28
（7）春木一郎博士旧蔵書の件	29
（8）春木一郎博士京都大学寄贈書の件	30
（9）春木一郎博士関連著作等	31
（10）インターネット関係	45

（参考）

（「春木一郎電子文庫」：和田徹氏「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」所蔵  
⇒令和 5（2023）年 12 月 31 日閉館）

<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>

<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm>

（⇒令和 6（2024）年 6 月 5 日再開（公表日））

<http://tosyokan.my.coocan.jp/>



### (作成経緯)

- ・平成 9 (1997) 年 3 月 27 日 初版 (稿) 作成
  - ・平成 10 (1998) 年 3 月 1 日 改訂版 (稿) 作成
  - HP 初載: ・平成 15 (2003) 年 10 月 1 日 (木) 二訂版 (稿) 作成、アップ (テキスト版)  
(爾後、三訂版 (稿)、四訂版 (稿) とは別途に、HP 上で補訂を繰り返す。)
  - ・平成 18 (2006) 年 10 月 1 日 三訂稿作成 (アップせず。)
  - ・平成 25 (2013) 年 9 月 1 日 四訂稿作成 (アップせず。)
  - ・平成 29 (2017) 年 11 月 20 日 (月) 五訂稿作成 (PDF 版に変更)  
(本五訂稿は、その後『CD 版 ローマ法、法制史、明治警察史及び日本統治下台湾警察史の諸問題—ローマ法・法制史学者著作目録選(第十三輯)— —明治警察史雑纂(第四輯)— —日本統治下台湾警察史雑纂(第八輯)—』(平成 30 (2018) 年 1 月 1 日刊) にも収録した。)
- <http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>

\*\*\*\*\*

### (五訂稿改定状況)

- ・令和元 (2019) 年 5 月 10 日 (金) 五訂稿-1 作成  
(上記五訂稿に多少の補正を加えたもの。)
- ・五訂稿から次稿六訂稿への移行作業中のものについては、当面五訂稿の枝番を付して逐次補訂の都度収録していくこととする。
- ・文中「近代デジタルライブラリー <http://kindai.ndl.go.jp/>」は、「国立国会図書館デジタルコレクション <http://dl.ndl.go.jp/>」に変更されていることをお断りしておく。
- ・令和元 (2019) 年 9 月 6 日 (金) 五訂稿-2 作成  
(上記五訂稿-1 に多少の補正を加えたもの。)
- ・令和 2 (2020) 年 6 月 17 日 (水) 五訂稿-3 作成  
(上記五訂稿-2 に多少の補正を加えたもの。)
- ・【参考 HP】の件、春木一郎博士による宮崎道三郎博士講義筆記録の件その他を修正、追加した。
- ・令和 3 (2021) 年 1 月 20 日 (水) 五訂稿-4 作成  
(上記五訂稿-3 に多少の補正を加えたもの。)
- ・令和 3 (2021) 年 11 月 5 日 (金) 五訂稿-5 作成  
(レイアウト全面変更、一部修正)

\*\*\*\*\*

(六訂稿)

- ・令和 4 (2022) 年 4 月 1 日 (金) 六訂稿作成  
(本六訂稿は、『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十五輯) —』(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊) に収録した。)

(七訂稿)

- ・令和 4 (2022) 年 7 月 2 日 (土) 七訂稿作成  
全体にわたり一、二補正した。

(八訂稿)

- ・令和 5 (2023) 年 7 月 18 日 (火) 八訂稿作成  
今般北康宏教授の貴重な『中田薫』(人物叢書、吉川弘文館刊) が刊行されたことから追加するとともに、全体にわたり一、二補正した。  
(<http://www.yoshikawa-k.co.jp/book/b626819.html>)

(九訂稿)

- ・令和 6 (2024) 年 3 月 17 日 (日) 九訂稿作成  
全体にわたり一、二補正した。本稿は電子版であることに鑑み、今後は黒赤 2 色使用にすることとした。和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館 (新館)」(<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>) が令和 5 (2023) 年 12 月 31 日 (日) に閉館した。

(十訂稿)

- ・令和 6 (2024) 年 6 月 7 日 (金) 十訂稿作成  
全体にわたり一、二補正した。先に閉館した和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館 (新館)」が、6 月 5 日 (水、公開公表日) に「私立玉川用賀村中央図書館 (新館)」(<http://tosyokan.my.coocan.jp/>) として再開されたことを追加した。。

(十一訂稿)

- ・令和 6 (2024) 年 12 月 31 日 (火) 十一訂稿作成  
今般瀧川政次郎博士 (1897~1992) が戦前旧満洲及び北京において行われた東洋法制史に関する研究その他諸活動の全容を解明された西英昭先生「瀧川政次郎の東洋法制史学に関する中間報告」『法政研究』第 91 卷第 3 号 (令和 6 (2024) 年 12 月刊) が公表されたが、同稿末尾の【附記】② (261~262 頁) によれば、瀧川政次郎博士「落魄した一学者」『話』第 3 卷第 1 号 (昭和 10 (1935) 年 1 月刊) は春木博士蔵書が瀧川博士の手によって中央大学の所蔵に帰した顛末を記載したものの由であるので、本稿関係各所で追記した。

【参考 HP】（令和 2（2020）年 6 月 17 日、同 3（2021）年 11 月 5 日、12 月 5 日、同 4（2022）年 7 月 2 日、同 5（2023）年 7 月 18 日各一部修正）

【参考 HP】

\* 法制史学会 HP（平成 14（2002）年 10 月 5 日公開、平成 24（2012）年 4 月 1 日移転）

〈<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalha/toppage.htm>〉 ⇒

（新） 〈<https://www.jalha.org/>〉

・ 〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%B1%B1%E5%AE%89%E6%95%8F>〉

\* 全体 HP

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/>〉

・ 「日本のローマ法」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Romanist2003.htm>〉

・ 「法制史学者著作目録選（WEB 版）」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・ 「「法制史コーナー」 所載項目一覧」（令和 4（2022）年 9 月 14 日（水）追加）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichiran002.pdf>〉

\*\*\*\*\*

・ 本 HP 別稿：宮崎道三郎博士略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miyazaki001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：池辺義象氏著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ikebe001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：三浦周行博士関係資料抄（令和 4（2022）年 9 月 28 日追加）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miura001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：中田薫博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakata001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：内藤吉之助教授略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/naito001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：瀧川政次郎博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takikawa001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：金田平一郎博士略年譜・著作目録

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kaneda001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：小早川欣吾先生略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：「小早川欣吾先生記念メダルによせて

—小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」とともに—

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他」

〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa\\_toyohoseishi.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf)〉

- ・本 HP 別稿：牧英正博士著作目録等抄  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/maki001.pdf>>
- ・本 HP 別稿：小林宏先生著作目録等抄  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayashi001.pdf>>
- ・本HP別稿：千賀鶴太郎博士著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/senga001.pdf>>
- ・本HP別稿：戸水寛人博士著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tomizu001.pdf>>
- ・本HP本稿：春木一郎博士略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki001.pdf>>
- ・本HP別稿：原田慶吉教授略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm>>
- ・本HP別稿：船田享二博士略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/funada2003b.htm>>
- ・本HP別稿：田中周友博士略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm>>
- ・本HP別稿：栗生武夫先生略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf>>
- ・本 HP 別稿：「栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」  
 <[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_chuhon.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf)>
- ・本 HP 別稿：「『栗生武夫先生随筆拾遺』作成の思い出  
 —『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—」  
 <[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf)>
- ・本 HP 別稿：PDF 版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』  
 <[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui\\_002.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf)>
- ・本HP別稿：西本穎博士著作目録等抄  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimoto001.pdf>>
- ・本HP別稿：久保正幡博士著作目録等抄  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf>>
- ・本HP別稿：井上周三教授関係資料抄  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/inoue001.pdf>>
- ・本HP別稿：上山安敏先生著作目録等抄  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ueyama001.pdf>>
- ・本HP本別稿：笥克彦博士略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf>>
- ・本HP別稿：近藤英吉博士略年譜・著作目録  
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kondo001.pdf>>

- ・本HP別稿：増田福太郎博士関係資料一斑  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/masuda001.pdf>〉
- ・本HP別稿：山崎丹照先生著作目録  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yamazaki001.pdf>〉
- ・本HP別稿：戴炎輝博士略年譜・著作目録  
 〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai\\_Yen-hui001.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf)〉

\*\*\*\*\*

\* 和田徹氏HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（⇒令和5（2023）年12月31日閉館）

- 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉
- ・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）  
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm>〉
- ・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）  
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm>〉
- ・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）  
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/kuryu.htm>〉
- ・いろいろ電子文庫  
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/iroiro.htm>〉
- ・PD 図書室（「梅雨空文庫」のデータを整理してまとめたもの）  
 〈<http://books.salterrae.net/about/tuyuzora.html>〉  
 （註）早くには「船田享二電子文庫」の平成22（2010）年開設予告もなされていた（平成14（2002）年12月14日初出か?）が、その後平成18（2006）年6月3日に「2006/06/03 船田享二電子文庫計画中止」の表示が出た。

.....

\* 先に閉館した上記和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」は、令和6（2024）年6月5日（水、公開公表日）に再開された。

- 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/>〉
- ・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）  
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/haruki.htm>〉
- ・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）  
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/harada.htm>〉
- ・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）  
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/kuryu.htm>〉
- ・いろいろ電子文庫  
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/iroiro.htm>〉
- ・梅雨空文庫  
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/tuyuzora.htm>〉

\*\*\*\*\*

\* 「西村稔先生（1947～2019）年譜・著作目録（阪本尚文編）（初版）（2020（令和2）年4月現在）」 ⇒爾後逐次改訂中 ⇒（最新版：令和5（2023）年11月現在第8稿掲載）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimura001.pdf>〉

（註）本著作目録は、阪本尚文編『Aún aprendo それでもまだ学ぶぞ——西村稔先生追悼集』（私家版、2020（令和2）年2月28日刊（福島大学学術機関情報リポジトリ所収〈<http://hdl.handle.net/10270/5154>〉））に収録した「西村稔先生年譜・著作目録」に逐次修正を加えつつあるものである。

\*\*\*\*\*



【関連 HP】（令和 3（2021）年 11 月 15 日全面差替、同 4（2022）年 4 月 1 日、7 月 2 日、同 5（2023）年 7 月 18 日、同 6（2024）年 3 月 17 日各一部修正）

- ・法制史学会：〈<https://www.jalha.org/>〉
- ・国立国会図書館：〈<https://www.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和 4（2022）年 5 月 19 日開始）

〈[https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital\\_transmission/individuals\\_index.html](https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html)〉

（下記：令和 5（2023）年 1 月 26 日追加）

〈[https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/221202\\_01.html](https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/221202_01.html)〉

「ホーム>新着情報>ニュース> 「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします（令和 4 年 12 月 21 日）

「2022 年 12 月 2 日「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします（令和 4 年 12 月 21 日）」

国立国会図書館は、令和 4 年 12 月 21 日に、国立国会図書館デジタルコレクションをリニューアルします。リニューアルにより、全文検索可能なデジタル化資料が増加するとともに、閲覧画面が改善されます。詳しくはプレスリリースをご覧ください。」

- ・（下記：令和 6（2024）年 1 月 1 日追加）  
「2024 年 1 月 5 日 新「国立国会図書館サーチ」を公開しました」⇒  
「国立国会図書館は、従来のウェブサービス「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（国立国会図書館オンライン）」及び「国立国会図書館サーチ」を統合・リニューアルし、令和 6 年 1 月 5 日（金）から、新「国立国会図書館サーチ」としてサービスを開始しました。」

〈[https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2023/240105\\_01.html](https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2023/240105_01.html)〉

- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー  
〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉
- ・CiNii: 〈<https://ci.nii.ac.jp/>〉 ⇒ 〈<https://cir.nii.ac.jp/>〉（**【[2022] 4/18 更新】**CiNii Articles の CiNii Research への統合について）、〈<https://ci.nii.ac.jp/books/>〉
- ・朝日新聞クロスサーチ（令和 4（2022）年春「聞蔵Ⅱビジュアル」を全面リニューアル）  
〈<http://www.asahi.com/information/db/2for1.html>〉
- ・ヨミダス歴史館  
〈<https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/>〉
- ・毎索（マイサク）  
〈<http://xn--https-ft8kv51h//mainichi.jp/contents/edu/maisaku/>〉
- ・雑誌記事索引集成データベース「ざっさくプラス」（令和 5（2023）年 1 月 26 日追加）  
〈<http://info.zassaku-plus.com/>〉  
〈[https://zassaku-plus.com/service/login?return\\_url=https%3A%2F%2Fzassaku-plus.com%2F](https://zassaku-plus.com/service/login?return_url=https%3A%2F%2Fzassaku-plus.com%2F)〉

\*\*\*\*\*

- ・ 京都大学 <<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja>>
- ・ 京都大学大学文書館 <<http://kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/ja/>>
- ・ 京都大学大学文書館「教員履歴データベース（京都大学歴代総長・教授・助教授履歴検索システム—対象: 1949年以前の在職者〔旧制〕—）」参照。

<<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/>>

「春木一郎」

<<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000766>>

（更新日: 2016/8/31、システム管理番号 000766）

「田中周友」

<<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000562>>

（更新日: 2016/8/31、システム管理番号 000562）

\*\*\*\*\*

### 十一訂稿はしがき

今般瀧川政次郎博士（1897～1992）が戦前旧満洲及び北京において行われた東洋法制史に関する研究その他諸活動の全容を解明された西英昭先生「瀧川政次郎の東洋法制史学に関する中間報告」『法政研究』第91巻第3号（令和6（2024）年12月刊）が公表されたが、同稿末尾の【附記】②（261～262頁）によれば、瀧川政次郎博士「落魄した一学者」『話』第3巻第1号（昭和10（1935）年1月刊）は春木博士蔵書が瀧川博士の手によって中央大学の所蔵に帰した顛末を記載したものと由であるので、本稿関係各所で追記した。西先生の貴重な御示教に厚く御礼申し上げます。

令和6（2024）年12月30日

編者謹誌

\*\*\*\*\*

### 十訂稿はしがき

先に「九訂稿はしがき」で閉館について言及した和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」が、6月5日（水、公開公表日）に再開された〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/>〉ことから、新たに十訂稿を作成した。寔に嬉しいことである。

令和6（2024）年6月7日

編者謹誌

\*\*\*\*\*

### 九訂稿はしがき

令和5（2023）年12月24日偶々知人から「春木一郎電子文庫」、「原田慶吉電子文庫」等を収載していた和田徹氏の貴重なサイト「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉に「告知 2023年12月31日をもって閉館」（2023/12/12 閉館告知）が出ている旨を教えられ、吃驚仰天した。寔に残念で寂しいことであった。この「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」は旧館が平成13（2001）年11月11日開設、同15（2003）年5月10日閉鎖、即新館に移転とのことであるので、二十数年間公開されてきたことになる。ちなみに、ローマ法関連では、この他「船田享二電子文庫」の平成22（2010）年開設予告もなされていた（平成14（2002）年12月14日初出か？）が、これは何故か平成18（2006）年6月3日に、「2006/06/03 船田享二電子文庫

計画中止」の表示が出た。今は、ただただ同サイトの長期にわたる大変な御寄与、御貢献に敬服と深謝の念あるのみである。

これを承け、やや遅ればせながらではあるが、九訂稿を作成することとした。なお、本稿は電子版であることに鑑み、今後は黒赤2色使用にすることとした。

令和6（2024）年3月17日

編者謹誌

\*\*\*\*\*

### 八訂稿はしがき

今般八訂稿を作成したが、更に補正に努めたく思っている。

令和5（2023）年7月18日

編者謹誌

\*\*\*\*\*

### 七訂稿はしがき

今般七訂稿を作成したが、更に補正に努めたく思っている。

令和4（2022）年7月2日

編者謹誌

\*\*\*\*\*

### 六訂稿はしがき

今般六訂稿を作成したが、更に補正に努めたく思っている。

令和4（2022）年4月1日

編者謹誌

(本六訂稿は、『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十五輯) —』(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊) に収録した。)

\*\*\*\*\*

### 五訂稿はしがき

HP「日本のローマ法」に掲載したテキスト版「春木一郎博士 (1870～1944)」  
(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki2003b.htm>) は、「著作目録 (二訂版 (稿)) (平成 15 年 10 月 1 日現在)」を基にして、補訂を繰り返し (補訂履歴: 平成 17 年 2 月 27 日、平成 18 年 8 月 6 日、平成 19 年 12 月 25 日、平成 20 年 3 月 18 日、4 月 7 日、6 月 26 日、8 月 10 日、9 月 27 日、12 月 19 日、平成 21 年 3 月 3 日、6 月 13 日、7 月 13 日、11 月 17 日、平成 22 年 10 月 15 日、平成 24 年 3 月 22 日、9 月 12 日、平成 27 年 3 月 7 日)、最終的には「(最新補訂: 平成 27 年 3 月 7 日)」現在で今に至った。

平成 18 (2006) 年作成の「三訂稿」との関連については、冒頭註で、「(註): 平成 18 (2006) 年 10 月 1 日に、別途、冊子版、CD 版で、「春木一郎博士著作目録 (三訂版 (三訂稿))」を作成した (『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授略年譜・著作目録—日本ローマ法学五先生略年譜・著作目録 (三訂版) —ローマ法・法制史学者著作目録選 (第七輯)』(平成 18 年 10 月 1 日刊)。しかるに、本稿は、諸般の事情により、平成 15 年 10 月 1 日作成の二訂版を適宜補訂しているものであって、上記三訂版 (三訂稿) を基にしているものではないことをお断りしておく。(平成 19 年 12 月 25 日追加)」と記したところである。

その後、平成 25 (2013) 年 9 月 1 日に、CD 版『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録—日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録 (新訂版) —ローマ法・法制史学者著作目録選 (第 10 輯) —』(平成 25 (2013) 年 9 月 1 日刊。既刊第七輯、第九輯の改訂合体版。ただし冊子版は作成できず CD 版のみあり。) 中で、春木一郎博士については四訂版 (稿) を作成したが、これも、HP 上には反映できずにいた。

しかるに、今般、諸般の事情により、「日本のローマ法」及び「法制史学者著作目録選 (WEB 版)」掲載のものうちテキスト版でアップしたままになっているものを、他との整合性をとるためすべて PDF 版と差し替えることにしたことから、春木一郎博士分についても、新たに上記四訂稿を基にして五訂稿を作成し、PDF 版で掲載することとした。

すなわち、本五訂稿は、平成 25 (2013) 年 9 月作成の四訂稿以降に気がついたものを中心に多少の改訂を加えたものである。追加分については追加年月日を記載し、四訂稿以降のものであることを明示した。国立国会図書館のデジタル資料についてはその後名称変更等がなされているが、諸々の制約で本稿ではそれを反映させていないことをお断りしておく。いずれ修正の予定でいる。

前回改訂後早くも四年余の歳月を閲し、本来ならば更に精査すべきであったが、今回は急に思い立って差し替えたため、ほとんどなにもできなかったことを甚だ遺憾に思う。出来るだけ早く六訂稿作成に向けて努力したいと考えているので、御示教いただければ幸いです。

なお、周知のように、春木一郎博士著作については、和田徹氏の貴重な HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉中に「春木一郎電子文庫」〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm>〉が存在する。是非とも御参照願いたい。

抑々本稿作成の発端は、これも、五十年もの昔御理解と御示唆を賜った上山安敏先生の御厚情に拠る。改めてここに先生に厚く御礼申し上げるものである。

平成 29（2017）年 11 月 20 日

編 者 謹 誌

（原載：『CD 版 ローマ法、法制史、明治警察史及び日本統治下台湾警察史の諸問題—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十三輯）— 明治警察史雑纂（第四輯）— 日本統治下台湾警察史雑纂（第八輯）—』（平成 30（2018）年 1 月 1 日刊）

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

\*\*\*\*\*

（四訂版に当たりて）

四訂版発行に当たり、更に補正した。なお、上記「春木一郎電子文庫」については、近年はネット環境もよくなり、問題は既に解消されていることを附記しておく。

（平成 25 年 9 月 1 日誌）

（原載：CD 版『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録—日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録（新訂版）— ローマ法・法制史学者著作目録選（第十輯）—』（平成 25（2013）年 9 月 1 日刊）

\*\*\*\*\*

（三訂版に当たりて）

三訂版発行に当たり、更に補正した。なお、上記「春木一郎電子文庫」については、時折閉鎖される場合があることを附記しておく。

(平成 18 年 10 月 1 日誌)

(原載: 『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士船田享二博士・武藤智雄教授 略年譜・著作目録—日本ローマ法学五先生略年譜・著作目録 (三訂版) — 一ローマ法・法制史学者著作目録選 (第七輯) —』 (平成 18 (2006) 年 10 月 1 日刊))

\*\*\*\*\*

(二訂版に当たりて)

二訂版発行に当たり、更に補正した。

近年、著名ローマ法学者、西洋法制史学者等の「電子文庫」を有する和田徹氏のホームページ「私立玉川用賀村中央図書館 (新館)」(旧館は、平成 13 年 11 月 11 日開設、同 15 年 5 月 10 日閉鎖、新館に移転。)が公開されている。このうち、「春木一郎電子文庫」についてはほぼ完全なものであり、ただただ驚愕するばかりである。加えて、今次改訂については、和田氏より貴重な御教示に与った。厚くお礼申し上げる次第である。

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉を参照。

(平成 15 年 10 月 1 日誌)

(原載: 『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士略年譜・著作目録—日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録 (二訂版) — 一ローマ法・法制史学者著作目録選 (第二輯) —』 (平成 15 年 10 月 1 日刊) (春木博士, 原田教授, 田中博士分は各二訂稿、船田博士分は六訂稿。第一輯の正誤表あり。))

\*\*\*\*\*

(改訂版に当たりて)

改訂版発行に当たり、二、三補訂した。

(平成 10 年 3 月 1 日誌)

(原載: 『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録 (初稿) [改訂版]』 (春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士) (平成 10 (1998) 年 3 月 1 日刊))

\*\*\*\*\*

## はじめに（初版）

先に、上山安敏先生の御序文を戴いて、『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿（三訂版）』（平成8年2月1日刊）を刊行したが、今般、又々、同先生の御指導を賜り、「田中周友博士略年譜・著作目録」を作成したことから、この機会に、大変僭越なことではあるが、春木一郎博士、原田慶吉教授のそれをも作らさせて戴くこととした。

春木博士、原田教授については、昨平成8（1996）年秋に西村重雄先生よりも作成方をおすすめ戴いていたが、田中博士のに合わせることにした次第である。

春木博士については、『春木先生還暦祝賀論文集』（有斐閣、昭和6年1月10日刊）中に、詳細な略歴、著作目録が掲載されており、本稿は、それを単に横書に換えただけにすぎない。但し、昭和6年以降のこと及び二、三気付いたことについては、追加しておいた。うち、講義録については、西村重雄先生より、格別の御指導を賜った。ここに誌して深甚の謝意を表する次第である。改訂につき非礼を犯していることを危惧しているが、何卒御諒恕賜れば幸いである。

これで、極めて不十分ではあるが、既作成の船田享二博士のもの（三訂稿）に加え、春木一郎博士、原田慶吉教授、田中周友博士のものをも作成し得たことになる。ただ、船田博士のについては、三訂稿作成以降、かなりの誤り、遺漏が判明したため、新たに四訂稿を作成した。これを受けて、次には、なるべく早く、春木博士、原田教授、田中博士、船田博士のものを一本にまとめることができればと願っている。今後とも宜しく御教示の程をお願いいたしたい。

平成9（1997）年3月27日

編者謹誌

（原載：『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録（初稿）』（春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士）（平成9（1997）年3月27日刊）（参考）『法律時報』平成9年12月号（第69巻第13号）所掲「1997年学界回顧」（西洋法制史、瀧澤栄治教授御担当個所、225頁））



## 1 略年譜

- 明治 3 (1870) 年 7 月 28 日 京都に生る
- 明治 24 (1891) 年 7 月 第一高等中学校英法科卒業  
同 年 9 月 帝国大学法科大学入学
- 明治 27 (1894) 年 7 月 10 日 帝国大学法律学科卒業 (英吉利法兼修)  
同 年同日 大学院入学
- 明治 30 (1897) 年 7 月 22 日 羅馬法研究のため 3 年間独国留学を命ぜらる
- 明治 34 (1901) 年 2 月 22 日 帰朝  
同 年 3 月 2 日 京都帝国大学法科大学教授に任じ高等官六等に叙せられ羅馬法講座担任を命ぜらる  
同 年 6 月 10 日 正七位に叙せらる  
同 年 6 月 29 日 法学博士の学位を授けらる (京都帝国大学総長推薦)
- 明治 35 (1902) 年 9 月 2 日 英吉利法講座分担を命ぜらる
- 明治 36 (1903) 年 3 月 21 日 高等官五等に陞叙せらる  
同 年 7 月 10 日 従六位に叙せらる
- 明治 38 (1905) 年 5 月 8 日 高等官四等に陞叙せらる  
同 年 7 月 20 日 正六位に叙せらる
- 明治 40 (1907) 年 7 月 24 日 高等官三等に陞叙せらる  
同 年 10 月 30 日 従五位に叙せらる
- 明治 42 (1909) 年 5 月 25 日 英吉利法講座分担を免じ更に英吉利法第一講座分担を命ぜらる
- 明治 43 (1910) 年 3 月 1 日 東京帝国大学法科大学講師を嘱託せらる  
同 年 8 月 16 日 高等官二等に陞叙せらる  
同 年 10 月 21 日 正五位に叙せらる
- 明治 44 (1911) 年 7 月 31 日 英吉利法第一講座分担を命ぜらる [京都大学]
- 明治 45 (1912) 年 6 月 1 日 東京帝国大学法科大学教授に任じ高等官二等に叙せられ羅馬法講座担任を命ぜらる
- 大正元 (1912) 年 9 月より大正 3 (1914) 年 7 月まで 英吉利法教授担任
- 大正元 (1912) 年 12 月 18 日 勲四等に叙し瑞宝章を授けらる
- 大正 4 (1915) 年 12 月 20 日 従四位に叙せらる
- 大正 5 (1916) 年 12 月 25 日 勲三等に叙し瑞宝章を授けらる
- 大正 8 (1919) 年 1 月 20 日 高等官一等に陞叙せらる
- 大正 9 (1920) 年 5 月 1 日 帝国学士院規程第二條に依り勅旨を以て帝国学士院会員仰付けらる
- 大正 10 (1921) 年 2 月 10 日 正四位に叙せらる
- 大正 11 (1922) 年 4 月 1 日 欧米各国へ出張を命ぜらる  
同 年 5 月 1 日 羅馬法講座担任を免ぜらる
- 大正 12 (1923) 年 3 月 23 日 帰朝

同 年 3 月 31 日 羅馬法講座担任を命ぜらる  
同 年 12 月 25 日 勲二等に叙し瑞宝章を授けらる  
大正 15 (1926) 年 4 月 2 日 従三位に叙せらる  
昭和 2 (1927) 年 3 月より昭和 4 (1929) 年 3 月まで  
京都帝国大学法学部講師として羅馬法を担当  
昭和 5 (1930) 年 3 月 31 日 願に依り本官を免ぜらる (註: 停年前)  
同 年 4 月 15 日 特旨を以て位一級を進め正三位に叙せらる  
昭和 19 (1944) 年 3 月 6 日 逝去

(附記)

・『法律春秋』第 1 巻第 4 号 (?) 特輯号 (大正 15 年 12 月 1 日刊?) 26 頁には、「出生地 奈良、現住所 東京市本郷区西片町 1 の 1 に〈マ〉の 33」とある。

・「春木一郎」『大日本博士録 (1888-1920) 第 1 巻 (全六巻之内) 法学博士及薬学博士之部』(発展社、大正 10 年 1 月 11 日刊) 59 頁

〈<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/946116>〉(133 齣)(令和元年 5 月 10 日追加)

・「日本研究のための歴史情報」〈<http://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/>〉(名古屋大学)  
(平成 30 年 8 月 3 日「人事興信録データベース」公開 (プレスリリース))

〈[http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/researchinfo/upload\\_images/20180806\\_law.pdf](http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/researchinfo/upload_images/20180806_law.pdf)〉(令和 2 年 6 月 17 日追加)

⇒「人事興信録データベース」

⇒〈<http://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/>〉

⇒〈<http://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who4-1262>〉(第 4 版 (大正 4 年 1 月刊))

⇒〈<http://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who8-18266>〉(第 8 版 (昭和 3 年 7 月刊))

・『朝日新聞』昭和 5 (1930) 年 3 月 12 日 (東京) 朝刊 11 面所載「春木教授引退に決す 東大のローマ法学者」には、春木教授が病いのため昭和 3、4 年度は休講、本 5 年度も夏休み以降休講であり、本年 7 月 28 日に 60 歳停年となるを待たず勇退することとなりとある。(令和 3 年 12 月 7 日追加)

## 2 著作目録

### (1) 訳書

#### 昭和 7 (1932) 年

・『儒帝法学撮要重要語纂訳』（刀江書院、昭和 7 年 10 月 8 日刊）（口絵（1）参照 [第 7 輯掲載、本輯では省略]）（近代デジタルライブラリー〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉にあり。）（平成 25 年 2 月 5 日一部補正）

⇒現在では国立国会図書館デジタルコレクションにあり。（令和元年 9 月 6 日一部補正）  
〈<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1465263>〉

【書評】田中周友（1900～1996）『法学論叢』第 28 巻第 6 号（昭和 7.12）

（参考）：明治 44（1911）年 7 月 ユスチニアヌス帝『法学提要』邦訳するも未刊とのこと（『京都帝国大学史』（京都帝国大学、昭和 18 年 12 月 20 日刊）205 頁、〈<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1460809>〉（136 齣）（後述）、山田三良博士（1869～1965）による追悼記事「故会員春木一郎君略歴」『帝国学士院紀事』第 3 巻第 2 号（昭和 19 年 7 月刊。後に、日本学士院『学問の山なみ 第二』（昭和 55 年 3 月 15 日刊）164 頁に再録。）等参照。）（令和元年 9 月 6 日一部補正）

#### 昭和 13 (1938) 年

・『ユースティニアヌス帝学説彙纂 Π Ρ Ω Τ Α（プロータ）』（有斐閣、昭和 13 年 4 月 20 日刊）（「（2）論文・邦訳」中\*を附したものを収録）

（「グーグルブックス」〈<http://books.google.co.jp/>〉にも収録されている。）（平成 25 年 7 月 23 日追加）

〈<http://books.google.co.jp/books?id=Jdzw6c9towIC&printsec=frontcover&dq=%E6%98%A5%E6%9C%A8%E4%B8%80%E9%83%8E&hl=ja&sa=X&ei=FAfuUamVGs3klAXMgIH4Cg&ved=0CDYQ6AEwAQ#v=onepage&q=%E6%98%A5%E6%9C%A8%E4%B8%80%E9%83%8E&f=false>〉

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1227730/1/1>〉（令和 5（2023）年 7 月 18 日追加）

【書評】船田享二（1898～1970）『帝国大学新聞』第 722 号（昭和 13 年 5 月 30 日、復刻版『帝国大学新聞』第 12 巻（不二出版刊）242 頁）

原田慶吉（1903～1950）『国家学会雑誌』第 53 巻第 7 号（昭和 14.7）

## (2) 論文・邦訳

### (参考)

・下記各稿については「春木一郎電子文庫」を有する和田徹氏のホームページ「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（旧館は、平成13年11月11日開設、同15年5月10日閉鎖、新館に移転。）参照。（平成25年4月19日追加）

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉

⇒同サイトは令和5（2023）年12月31日閉館（令和6（2024）年3月17日追加）

⇒その後、令和6（2024）年6月5日（公開公表日）に下記URLにて再開した。（令和6（2024）年6月7日追加）

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/>〉

・「(2) 論文・邦訳」中「\*」を附したものは『ユースティニアヌス帝学説彙纂II P Q T A（プロータ）』（有斐閣、昭和13年4月20日刊）に収録。（令和元年9月6日追加）、〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1227730/1/1>〉（令和5（2023）年7月18日追加）

### 明治36（1903）年

・ボロニヤ時代以降十九世紀末ニ至ル間ノ羅馬法研究ノ方法ニ就キテ『明治法学』第64号（明治36.12）

### 明治37（1904）年

・羅馬人カ權利論ヲ為ササリシ所以ニ就テ『法学新報』第14巻第1号（明治37.1）

### 明治39（1906）年

・羅馬法ニ於ケル疑問一則（代理ノ認許）『日本法政新誌』第10巻第1号（明治39.1）

・L.2 C.quae sit longa consuetudo 8.52 ノ解釈『京都法学会雑誌』第1巻第4号（明治39.4）

・Hereditas iacens ノ性質『日本法政新誌』第10巻第8号（明治39.8）

・十二表法『京都法学会雑誌』第1巻第8号（明治39.8）～第2巻第1号（明治40.1）

・Sabiniani ト Proculiani 『内外論叢』第5巻第5-6号（明治39.10、12）

### 明治40（1907）年

・羅馬ノ奴隸制一般『日本法政新誌』第11巻第1号（明治40.1）

・民法第千九十八条及ヒ第千九十九条ヲ読ム『京都法学会雑誌』第2巻第3号（明治40.3）

・ウルピアヌス氏ノ法律学ノ定義ヲ読ム『京都法学会雑誌』第2巻第6号（明治40.7）

・羅馬法ニ於ケル果实（Fructus）ニ就テ『京都法学会雑誌』第2巻第10号（明治40.12）

### 明治41（1908）年

・羅馬法ニ於ケル埋蔵物ノ発見『日本法政新誌』第12巻第1号（明治41.1）

・Stipulatio 『京都法学会雑誌』第3巻第5号（明治41.5）

・Aymar du Rivail 『京都法学会雑誌』第3巻8号（明治41.8）

・Digesta 中ニ於ケル emblemata Triboniani 『京都法学会雑誌』第3巻第11号（明治41.11）

・Digesta 中ニ於ケル emblemata Triboniani ヲ発見スルノ方法『京都法学会雑誌』第3

卷第 12 号 (明治 41.12)

明治 42 (1909) 年

- ・ *Constitutio Tanta* ヲ読ム『京都法学会雑誌』第 4 卷第 1 号 (明治 42.1)
- ・ 羅馬法ニ於ケル負担『日本法政新誌』第 13 卷第 1 号 (明治 42.1)
- ・ 条件ノ不許可 (羅馬法) 『京都法学会雑誌』第 4 卷第 2 号 (明治 42.2)
- ・ *Virgines Vestales* 『京都法学会雑誌』第 4 卷第 5 号 (明治 42.5)
- ・ *Papinianus* 『京都法学会雑誌』第 4 卷第 7 号 (明治 42.7)
- ・ *Pontifices* 『京都法学会雑誌』第 4 卷第 8 号 (明治 42.8)
- ・ *Fetiales* 『京都法学会雑誌』第 4 卷第 11 号 (明治 42.11)
- ・ *Augures* 『京都法学会雑誌』第 4 卷第 12 号 (明治 42.12)

明治 43 (1910) 年

- ・ *Cicero* ノ「法律論」ヲ読ム『京都法学会雑誌』第 5 卷第 1 号 (明治 43.1)
- ・ *res mancipi* ト *res nec mancipi* 『京都法学会雑誌』第 5 卷第 8 号 (明治 43.8)
- ・ *Beneficium inventarii* 『京都法学会雑誌』第 5 卷第 9 号 (明治 43.9)
- ・ 羅馬法ニ於ケル他人ノ物ノ売買『京都法学会雑誌』第 5 卷第 10-12 号 (明治 43.10-12)

明治 44 (1911) 年

- ・ *Legis actio sacramento* ニ就テ『京都法学会雑誌』第 6 卷第 1 号 (明治 44.1)
- ・ 耶蘇教理カ羅馬奴隸制ニ及ホシタル影響ニ就テ『京都法学会雑誌』第 6 卷第 7 号 (明治 44.7)
- ・ *Precarium* ノ性質ヲ論ス『京都法学会雑誌』第 6 卷第 9 号 (明治 44.9)
- ・ 羅馬法〔執筆分擔〕『大日本百科辞書法律大辞書』(同文館、明治 44.11 刊) (日本図書センターより復刻、平成 10.4 刊)

明治 45 (1912) 年

- ・ *Formula* ニ就テ『京都法学会雑誌』第 7 卷第 1 号 (明治 45.1)
- ・ *Poena cullei* 『京都法学会雑誌』第 7 卷第 3 号 (明治 45.3)

大正 3 (1914) 年

- ・ 儒帝ノ *Institutiones* ノ編纂者及ヒ淵源ニ就テ『法学協会雑誌』第 32 卷第 3 号 (大正 3.3)
- ・ ガーイウス羅馬法講義案〔翻訳〕『法学協会雑誌』第 32 卷第 4、5、6、7、8、9、10、11、12 号; 第 33 卷 2、3、4、5、6、7、8、9、10、11 号; 第 34 卷第 1、2、3、4、5、6、7、8、10 号 (大正 3.4~大正 5.10)
- ・ ウルピアースス法学実用書抄録訳『京都法学会雑誌』第 9 卷第 9-12 号 (大正 3.9-12)

大正 4 (1915) 年

- ・ *Confarreatio* 及ヒ *Coemptio* ノ起源、方式ニ付テ『穂積(陳重)先生還暦祝賀論文集』(有斐閣、大正 4 年 9 月刊)
- ・ *Testamentum per aes et libram* ニ付テ『法学協会雑誌』第 33 卷第 9 号 (大正 4.9)

大正 5 (1916) 年

- ・ *Constitutum* ノ沿革ヲ論ス『法学協会雑誌』第 34 卷第 4 号 (大正 5.4)

大正 6 (1917) 年

- ・ ガーイウス羅馬私法講義案写本発見一百年ノ記念『法学協会雑誌』第 35 卷第 1 号 (大

正 6.1)

・ lex Aquilia ニ付テ 『土方（寧）教授在職二十五年記念私法論文集』（有斐閣、大正 6 年 10 月刊）

#### 大正 7（1918）年

・ Actio doli ニ付テ 『法学協会雑誌』 第 36 卷第 5-7 号（大正 7.5-7）

・ Cautio Usufructuaria ニ付テ 『富井（政章）先生還暦祝賀法律論文集』（有斐閣、大正 7 年 11 月刊）

#### 大正 8（1919）年

・ 十二表法ノ iniuria ニ付テ 『法学協会雑誌』 第 37 卷第 4 号（大正 8.4）

・ 十二表法ニ於ケル ius ニ付テ 『法学志林』 第 21 卷第 7 号（大正 8.7）

・ 十二表法ニ於ケル furtum ニ付テ 『法学協会雑誌』 第 37 卷第 10 号（大正 8.10）

#### 大正 9（1920）年

・ Fenus nauticum ニ付テ 『海法会誌』 第 4 号（大正 9.4）

・ Formula 訴訟手續ニ於ケル litis contestatio ノ方式及ヒ性質ニ付テ 『法学協会雑誌』 第 38 卷第 6-8 号（大正 9.6-8）

・ 羅馬法研究雑話（一） 『国家学会雑誌』 第 34 卷第 10 号（大正 9.10）

#### 大正 10（1921）年

・ 'Cum nexum faciet mancipiumque, uti lingua nuncupassit, ita ius esto'ニ付テ 『法学協会雑誌』 第 39 卷第 5-6 号（大正 10.5-6）

・ 平民（Plebs）の起原に付テ 『国家学会雑誌』 第 35 卷第 10 号（大正 10.10）

・ 羅馬国の奴隷制小話 『中央大学学友会誌』 第 2 卷第 1 号（大正 10.11）

#### 大正 14（1925）年

・ 売買ノ発展史ニ於ケル mancipatio 『法学新報』 第 35 卷第 1 号（大正 14.1）

・ 質権ノ発達史ニ於ケル fiducia ニ付テ 『法学協会雑誌』 第 43 卷第 10、11、12 号（大正 14.10、11、12）

#### 大正 15（1926）年

・ \*儒帝勅法三篇邦訳 『法学新報』 第 36 卷第 1 号（大正 15.1）

・ \*儒帝学説彙纂第二卷邦訳（1）（2）（3）完 『法学新報』 第 36 卷第 5、6、7 号（大正 15.5、6、7）

・ \*学説彙纂編纂に関する一疑問〔附録〕 『法学新報』 第 36 卷第 7 号（大正 15.7）

・ \*儒帝勅法彙纂制定に関する勅詔三篇及ヒ儒帝法を伊太利に施行する勅詔邦訳 『法学新報』 第 36 卷第 8 号（大正 15.8）

・ \*儒帝学説彙纂第三卷邦訳（1）～（7）完 『法学志林』 第 28 卷第 9、11、12；第 29 卷第 2、4、6、7 号（大正 15.9～昭和 2.7）

・ 儒帝法典編纂に関する一小節 『法律春秋』 第 1 卷第 3 号（大正 15.11）

#### 昭和 2（1927）年

・ \*儒帝学説彙纂第四卷邦訳（1）～（10）完 『法学新報』 第 37 卷第 1、2、3、4、5、6、9 号；第 39 卷第 3、4、5 号（昭和 2.1～4.5）

・ 羅馬法の道徳的価値 『法律春秋』 第 2 卷第 2 号（昭和 2.2）

・羅馬法学の大家巴里法科大学名誉教授 Paul Frédéric Girard 氏遂に逝く『法学新報』第 37 卷第 3 号（昭和 2.3）（Paul Frédéric Girard: 1852～1926）

・余が感銘を与へられた書（6） 1 老子 2 フランクリン 3 ギボン『帝国大学新聞』第 213 号（昭和 2 年 6 月 1 日号）（『復刻版 帝国大学新聞』第 2 卷（不二出版、昭和 59 年刊）371 頁）

昭和 5（1930）年

・\*儒帝学説彙纂第一卷邦訳（1）～（3）完『法学新報』第 40 卷第 10、11、12 号（昭和 5.10、11、12）

昭和 16（1941）年

・優帝法学撮要発布の勅諭『法学協会雑誌』第 59 卷第 2 号（昭和 16.2）

昭和 17（1942）年

・羅馬法百話（1）～（4）（矢田一男（1904～1966）と共同執筆）『法学新報』第 52 卷第 1、2、3、5 号（昭和 17.1、2、3、5）

### (3) 講義録

(註1: 春木博士の講義録の全国の大学における所蔵状況については CiNii 中「春木一郎」参照。〈<http://ci.nii.ac.jp/>〉)

(註2: 例えば、ある大学には下記のものが存在する。) (平成 25 年 7 月 22 日追加) 「1-1 羅馬法 (上) ローマハウ 出版者 [東京]: 弘文社 出版年 [1914.8] 形態 434p; 23cm 注記事項 謄写版

1-2 羅馬法 (下) 出版者 [東京]: 弘文社 出版年 [1914.4] 形態 316p; 23cm 注記事項 謄写版

2 羅馬法: 東京帝國大學法學部講義 / 春木博士述; 螢光堂編 出版者 東京: 螢光堂 出版年 1927.11 形態 12, 279p; 21cm 他の書名 VT: 羅馬法: 東京帝國大學法學部講義 ST: 羅馬法 注記事項 謄写印刷

### 明治 40 (1907) 年

・講義者自筆本 (記念のため昭和 15 年京都帝國大學法學部に寄贈、明治 40 年 9 月乃至 41 年 5 月の学年における講義に使用したもの (『京都帝國大學史』 205 頁、136 齣))

〈<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1460809>〉 (URL のみ令和元年 9 月 6 日追加)

(参考) ・菅原憲二 (1947~) ・飯塚一幸 (1958~) ・西山伸 (1963~) 『田中秀央 近代西洋学の黎明—『憶い出の記』を中心に』 (京都大學學術出版会、平成 17 年 3 月 25 日刊。田中秀央 (ひでなか): 1886~1974) 310 頁掲載の「10 1940 年 8 月 28 日付け田中秀央宛春木一郎書簡」参照。 (令和元年 5 月 10 日追加)

(追記) (令和元年 9 月 6 日追加)

春木一郎博士の京都帝國大學法科大學での羅馬法講義自筆本 (明治 40 年 9 月乃至 41 年 5 月の学年における講義に使用したもの) が記念のため昭和 15 年京都帝國大學法學部に寄贈されていること (『京都帝國大學史』 〈京都帝國大學、昭和 18 年 12 月 20 日刊〉 205~206 頁) は、上述のとおりである 〈<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1460809>〉 (136~137 齣) が、これをしたのは、愛久澤直紀氏 (愛久澤直哉 (1866~1940、春木一郎博士の高校、大學同学年生) 令孫) であって、同時にかんりのものが寄贈されているようである。この春木一郎博士関係書籍の件については、菅原憲二 (1947~) ・飯塚一幸 (1958~) ・西山伸 (1963~) 『田中秀央 近代西洋学の黎明—『憶い出の記』を中心に』 (京都大學學術出版会、平成 17 年 3 月 25 日刊) 310 頁参照。但し、翻刻文中「山田乙三」はあるいは「山田正三」の誤植か。 (山田正三 (1882~1949):

〈<https://kensaku.kual.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/>〉。山田乙三 (1881~1965) は最後の關東軍總司令官)

(愛久澤直哉):

〈 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%84%9B%E4%B9%85%E6%BE%A4%E7%9B%B4%E5%93%89>〉

(山田正三):

・七戸克彦「山田喜之助・正三・作之助・弘之助: 一神戸學院大學・山田作之助関係資料



に寄せて一」『神戸学院法学』第46巻第2号（平成28年10月刊）87～185頁参照。

〈<http://www.law-kobegakuin.jp/wp/wp-content/uploads/2018/03/46-2-03.pdf>〉

#### 昭和26（1951）年～27（1952）年

・吉田五郎（1911～1994）・春木一郎先生述「ローマ法講義」ノート（1）（2）（3）（4）（5）『社研』（八幡大学（現九州国際大学）社会体制研究所）第3巻第1、2号；第4巻第1、2、3号（昭和26年10、12月；昭和27年4、8、10月）（令和元（2019）年9月6日一部修正。同年8月23日和仁かや教授の御示教による。厚く御礼申し上げます。）

#### 昭和44（1969）年

・吉田五郎（1911～1994）・春木一郎講述「羅馬法講義」（緒論 第一編羅馬法序論（内容 公法・法源））『八幡大学法律研究所報』第3号（昭和44年7月）

#### 昭和45（1970）年

・吉田五郎（1911～1994）編・春木一郎講述「羅馬法講義」（八幡大学法経学会、昭和45年刊、B6 246頁）

（昭和2年京大法学部での特別講義、羅馬法序論と羅馬私法の2編からなる。）

【書評】『ジュリスト』第464号（昭和45.10.15、「図書一批評と紹介一覧」）

#### 昭和46（1971）年

・吉田五郎（1911～1994）編・春木一郎講述『羅馬法講義（訴訟法編）』（八幡大学社会文化研究所紀要創刊号、昭和46年6月）（明治40年度京都帝国大学法科大学講義）

（参考）吉田五郎教授略歴・主要業績『八幡大学論集』第23巻第1・2・3合併号（昭和47.12）

(4) 試験問題 (新設: 平成 29 年 11 月 20 日)

- ・『東西大学 法律 政治 経済科試験問題』(進化堂、明治 43 年 9 月 5 日刊) (「羅馬法」参照。国立国会図書館近代デジタルライブラリーにあり。⇒デジタルコレクション) (平成 27 年 3 月 7 日井上琢也先生の御教示による。下記と併せ、厚く御礼申し上げます。)
- ・『東西大学 法律 政治 経済科試験問題』(文信社、大正 3 (1914) 年 2 月 1 日初版刊、大正 5 年 12 月 20 日改訂 4 版刊、大正 6 年 9 月 30 日増訂第 5 版刊) (「羅馬法」参照。国立国会図書館近代デジタルライブラリーにあり。⇒デジタルコレクション) (平成 27 年 3 月 7 日井上琢也先生の御教示による。)

(上記については、下記に変更) (令和元 (2019) 年 5 月 10 日修正)

- ・『東西大学 法律 政治 経済科目試験問題』(進化堂書店、明治 43 (1910) 年 9 月 5 日刊) (以下「A」と略称。)
- ・『東西大学 法律 政治 経済科目試験問題』(文進社、大正 5 (1916) 年 12 月 20 日改訂四版刊) (以下「B」と略称。)
- ・『東西大学 法律 政治 経済科目試験問題』(文進社、大正 6 (1917) 年 9 月 30 日改訂五版刊) (以下「C」と略称。)
- ・『高等文官、外交官、判検事、弁護士、各官私立大学試験問題集』(三書楼(巖松堂書店の別会社か?)、明治 42 (1909) 年 8 月 25 日刊) (以下「D」と略称。)
- ・『四十二年度試験問題集』(三書楼巖松堂書店の別会社か?)、明治 43 (1910) 年 3 月 20 日刊) (以下「E」と略称。)

「A」 <<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/814340>>

「B」 <<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/955547>>

「C」 <<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/955548>>

「D」 <<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/786382>>

「E」 <<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/786391>>

東京帝国大学法科大学羅馬法試験問題の一部については下記も参照。

\*明治 43 (1910) 年度 (当時京大教授で東大講師)

・『国家学会雑誌』第 24 巻第 10 号 (明治 42 年 10 月 1 日刊) 「学年試験及追試験問題」  
第一回試験 6 月施行学年試験: 156~157 頁、9 月施行追試験: 160 頁

\*明治 44 (1911) 年度 (当時京大教授で東大講師)

・『国家学会雑誌』第 25 巻第 8 号 (明治 44 年 8 月 1 日刊) 「法科大学試験問題」  
第一回試験 134 頁、追試験は未掲載。

\*明治 45、大正元 (1912) 年度以降は試験問題自体が未掲載。

(5) その他 (新設: 平成 20 年 12 月 15 日)

大正 15 (1924) 年

・入江俊郎 (1901~1972) 『IUS PRAETORIUM の研究—羅馬法進化論—』 (巖松堂書店、大正 15 年 2 月 5 日刊) 序文 (平成 20 年 12 月 15 日追加)

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/982861/1/1>〉 (令和 5 (2023) 年 7 月 18 日追加)

(調査中)

・『雄弁』第 5 号 (大日本図書、明治 43 年 6 月 1 日刊) に春木一郎名の文掲載とのこと。

「日本の古本屋」 〈<http://www.kosho.or.jp/servlet/top>〉 「春木一郎」で検索。(平成 25 年 8 月 2 日追加)

(6) 書簡 (新設: 平成 21 年 7 月 17 日)

・春木一郎発田中秀央宛書簡: 菅原憲二 (1947～) ・飯塚一幸 (1958～) ・西山伸 (1963～) 『田中秀央 近代西洋学の黎明—『憶い出の記』を中心に』 (京都大学学術出版会、平成 17 年 3 月 25 日刊。田中秀央 (ひでなか): 1886～1974) 26 春木一郎発 1～11 通 305～311 頁 (平成 21 年 7 月 13 日追加)

・ヤフオク出品物 (出品期間: 平成 31 (2019) 年 3 月 1 日～3 月 8 日) (令和元年 9 月 6 日追加)

・分銅 1.5 銭葉書「春木一郎」差出「憲法学者佐々木惣一」宛 2 通 (駒込 大正 2.3.29、同 5.1.2) (佐々木惣一: 1878～1965)

・直筆葉書 「春木一郎」⇒「佐々木惣一」宛 1 通

(7) 春木一郎博士旧蔵書の件 (平成 29 年 11 月 20 日追加)

中央大学図書館「ローマ法関係貴重書」

HP「日本の大学所蔵特殊コレクション」:

<http://tksosa.dijtokyo.org/?lang=ja>

[http://tksosa.dijtokyo.org/?page=collection\\_detail.php&p\\_id=290&lang=ja](http://tksosa.dijtokyo.org/?page=collection_detail.php&p_id=290&lang=ja)

HP「中央大学図書館要覧」(6 蔵書:貴重書等について):

[http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/library/pdf/h01\\_07/2011\\_youran.pdf](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/library/pdf/h01_07/2011_youran.pdf)

(追記) (令和 6 (2024) 年 12 月 31 日追加)

今般瀧川政次郎博士(1897~1992)が戦前旧満洲及び北京において行われた東洋法制史に関する研究その他諸活動の全容を解明された西英昭先生「瀧川政次郎の東洋法制史学に関する中間報告」『法政研究』第 91 卷第 3 号(令和 6 (2024) 年 12 月刊)が公表されたが、同稿末尾の【附記】②(261~262 頁)によれば、瀧川政次郎博士「落魄した一学者」『話』第 3 卷第 1 号(昭和 10 (1935) 年 1 月刊)は春木博士蔵書が瀧川博士の手によって中央大学の所蔵に帰した顛末を記載したものとの由である。西先生の貴重な御教示に厚く御礼申し上げます。

(8) 春木一郎博士京都大学寄贈書の件 (令和元年 5 月 10 日追加、同 9 月 6 日一部修正)

春木一郎博士の京都帝国大学法科大学での羅馬法講義自筆本 (明治 40 年 9 月乃至 41 年 5 月の学年における講義に使用したもの) が記念のため昭和 15 年京都帝国大学法学部に寄贈されていること (『京都帝国大学史』 (京都帝国大学、昭和 18 年 12 月 20 日刊) 205～206 頁) は、上述のとおりである ( <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1460809> ) (136～137 齣) が、これをしたのは、愛久澤直紀氏 (愛久澤直哉 (1866～1940、春木一郎博士の高校、大学同学年生) 令孫) であって、同時にかんりのものが寄贈されているようである。この春木一郎博士関係書籍の件については、菅原憲二 (1947～) ・飯塚一幸 (1958～) ・西山伸 (1963～) 『田中秀央 近代西洋学の黎明—『憶い出の記』を中心に』 (京都大学学術出版会、平成 17 年 3 月 25 日刊) 310 頁参照。但し、翻刻文中「山田乙三」はあるいは「山田正三」の誤植か。(山田正三 (1882～1949) :

( <https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/> ) 。山田乙三 (1881～1965) は最後の関東軍総司令官)

(愛久澤直哉) :

( <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%84%9B%E4%B9%85%E6%BE%A4%E7%9B%B4%E5%93%89> )

(山田正三) :

・七戸克彦「山田喜之助・正三・作之助・弘之助: 一神戸学院大学・山田作之助関係資料に寄せて一」『神戸学院法学』第 46 巻第 2 号 (平成 28 年 10 月刊) 87～185 頁参照。

( <http://www.law-kobegakuin.jp/wp/wp-content/uploads/2018/03/46-2-03.pdf> )

また、宮崎道三郎博士 (1855～1928) の羅馬法、独逸法律史講義録につき春木一郎博士と関連あるものについては取り敢えず下記を検索。(「独逸法律史」関係については令和 2 年 6 月 17 日追加)

・CiNii Books ( <https://ci.nii.ac.jp/books/> ) (「宮崎道三郎」、「Roman law+宮崎道三郎」、「宮崎道三郎+独逸法律史」等で検索)

(追記) (令和 2 (2020) 年 6 月 17 日追加)

上記関連著作につき、下記参照。

令和元 (2019) 年

・吉原達也「宮崎道三郎博士の羅馬法講義について」『日本法学』第 85 巻第 2 号 (日本大学法学部創設 130 周年記念号、令和元年 9 月 27 日刊) 1～30 頁 (春木一郎博士の宮崎道三郎博士講義筆記録関係) (令和 2 年 6 月 17 日追加)

( [https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/law/law\\_85\\_2/each/06.pdf](https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/law/law_85_2/each/06.pdf) )

令和 2 (2020) 年

・吉原達也「宮崎道三郎博士の独逸法律史講義について」『日本法学』第 85 巻第 4 号 (南部篤教授退職記念号、令和 2 年 3 月 27 日刊) 223～266 頁 (春木一郎博士の宮崎道三郎博士講義筆記録関係) (令和 2 年 6 月 17 日追加)

( [https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/law/law\\_85\\_4/each/13.pdf](https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/law/law_85_4/each/13.pdf) )

## (9) 春木一郎博士関連著作等

『東京帝国大学一覧』、『京都帝国大学一覧』（各年版。東京帝国大学、京都帝国大学。近代デジタルライブラリー〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉にあり。⇒現在では国立国会図書館デジタルコレクション〈<http://dl.ndl.go.jp/>〉参照。（令和元年9月6日一部修正）

### 明治36（1903）年

・『京都帝国大学法科大学教室新築落成紀念[マ]講演集』（『法律学 経済学 内外論叢』臨時増刊、宝文館、明治36年11月5日刊）（巻頭に、千賀鶴太郎教授〈1857～1929〉、春木一郎教授等当時の全教官の記念集合写真あり。）（平成20年9月27日追加）〔参考⇒第10輯「ファイル第1-2」（第十輯口絵）に収録した。（平成25年8月1日追加）〕

⇒京都大学創立九十周年記念協力出版委員会編『京大史記』（出版協力 六甲出版、昭和63年8月20日刊）「（本紀編）図録京大九十年」52頁掲載の「法科大学時代の教授陣」は、上記写真の再録であるが、個人名の記載はない。（平成25年6月7日追加）

### 明治37（1904）年

・鳥海安治編『東西両京之大学』（法科之部・斬馬劍禪）（編集兼発行者：鳥海安治明治37年1月7日刊。近代デジタルライブラリー〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉（⇒国立国会図書館デジタルコレクション〈<http://dl.ndl.go.jp/>〉）にあり。斬馬劍禪：五来欣造〈素川、1875～1944〉のことか。）（後に、斬馬劍禪『東西両京の大学－東京帝大と京都帝大－』（講談社学術文庫、昭和63年11月10日刊）として復刻。）（平成20年9月27日、令和元年9月6日一部修正）

（参考）向井健（1931～2016）「旧刊再見 斬馬劍禪「東西両京之大学」」『季刊実務民事法』4（昭和59年1月20日刊）128～133頁（平成25年7月29日追加）

### 明治41（1908）年

・千朶木仙史編『学界文壇時代之新人』（天地堂、明治41年6月刊）（281、282頁）（近代デジタルライブラリー〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉にあり。⇒国立国会図書館デジタルコレクション〈<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/777987>〉）（令和元年5月10日一部修正）

### 明治45（1912）年

・『東京朝日新聞』明治45（1912）年4月25日4面「帝国大学より」  
「（中略）なほ本邦羅馬法の大家春木一郎博士は戸水寛人氏〔1861～1935〕東京大学を辞職以来東西両大学の羅馬法講座を一人にて担任され居りしが今回東京大学専任と決し既に家族を取纏めて上京せり。京都大学羅馬法の講座は最近帰朝の伴房次郎〔1874～1956〕担任との説あれとも多分風説に止まるべく或は曩に一度担任せし事ある千賀鶴太郎氏〔1857～1929〕之に当るべきかといふ右御参考までに申上候但し青木氏〔マ、春木氏〕東京専任の発表は八月頃なるべし」（令和6（2024）年3月17日追加）

### 大正4（1915）年

・「春木一郎」『大正名家録』（二六社編纂局、大正4年8月25日刊）（ハの部8頁）（現住所：本郷区根津西須賀町8番地とある。）（『法律春秋』第1巻第4号(?)特輯号（大

正 15 年 12 月 1 日刊) 26 頁には、「出生地奈良、現住所 東京市本郷区西片町 1 の 1 に[ママ]の 33」とある。(平成 20 年 3 月 19 日一部追加)

#### 大正 6 (1917) 年

・出口競 (1890~1957) 『学者町学生町』 (実業之日本社、大正 6 年 8 月 5 日刊) 「法科・工科、評判記 ローマ法の春木一郎」 264~265 頁 (近代デジタルライブラリー <<http://kindai.ndl.go.jp/>> ⇒ 国立国会図書館デジタルコレクション <<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/956015>> にあり (144 齣)。) (平成 24 年 3 月 22 日追加、令和元年 9 月 6 日一部修正)

#### 大正 10 (1921) 年

・『大日本博士録 (1888-1920) 第 1 巻法学博士及薬学博士之部』 (発展社、大正 10 年 1 月 11 日刊) (59 頁) (平成 20 年 9 月 27 日一部修正) ⇒ 国立国会図書館デジタルコレクション <<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/946116>> (133 齣) (令和元年 5 月 10 日一部追加)

#### 大正 13 (1924) 年

・恒藤恭 (1888~1967) 『羅馬法に於ける慣習法の歴史及理論』 (弘文堂書房、大正 13 年 2 月 25 日刊) 序 (5、6 頁) <<https://dl.ndl.go.jp/pid/971429/1/1>> (平成 20 年 12 月 19 日追加)

・平野義太郎 (1897~1980) 『民法に於けるローマ思想とゲルマン思想』 (有斐閣、大正 13 年 7 月 25 日刊 <<https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/detail/R300000001-I000000575169-00>>) (〔増補新版〕 (有斐閣、昭和 45 (1970) 年 10 月 15 日刊) <<https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/detail/R300000001-I000001195904-00>> )

#### 大正 15 (1924) 年

・勝本正晃 (1895~1993) 『民法に於ける事情変更の原則』 (有斐閣、大正 15 年 9 月 15 日刊) 序 (6 頁) <<https://dl.ndl.go.jp/pid/1020697/1/1>> (平成 20 年 12 月 19 日追加)

#### 昭和 2 (1927) 年

・「法・経・商学博士総覧」『法律春秋』第 2 巻第 1 号 (普選特輯号、昭和 2 年 1 月 1 日刊) (26 頁) (平成 20 年 3 月 5 日追加)

#### 昭和 3 (1928) 年

・東大法学部の人々〔上〕「春木一郎博士」の項『法律春秋』第 3 巻第 3 号 (執筆者「H・I・K」、3 月 1 日刊) (〔中〕: 第 3 巻第 9 号 (昭和 3 年 9 月 1 日刊)、〔下〕: 第 3 巻第 10 号 (昭和 3 年 10 月 1 日刊)、「中田薫教授」(90、91 頁。中田薫: 1877~1967)) (平成 20 年 3 月 5 日一部修正)

#### 昭和 4 (1929) 年

・中川善之助 (1897~1975) 「昭和四年回顧 法学界」『経済往来』第 4 巻第 12 号 (昭和 4 年回顧号、日本評論社、昭和 4 年 12 月 1 日刊) (163、164 頁) (平成 20 年 3 月 19 日追加)

#### 昭和 5 (1930) 年

・『朝日新聞』昭和 5 年 3 月 12 日 (東京) 朝刊 11 面所載「春木教授引退に決す 東大のローマ法学者」 (令和 3 年 12 月 7 日追加)



・藤原毅「東大法学部を去る人とその後継者」中「春木一郎博士」『法律春秋』第5巻第5号（昭和5年5月1日刊）（110頁）

#### 昭和6（1931）年

・『春木（一郎）先生還暦祝賀論文集』（有斐閣、昭和6年1月10日刊。「略歴・研究論文目録〈昭和5年現在〉」あり。）

【書評】廣濱嘉雄（1891～1960）『法律時報』第3巻第4号（昭和6年4月刊）

・来間恭（大正8（1919）年三高卒）「京大展望『転落』への下りか上りか」『大阪毎日新聞』昭和6年5月11日～7月28日（春木博士関係記載あり。）（平成22年10月15日追加）

（神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」：人物伝記（4-026））

〈<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/SearchServlet>〉

〈[http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10086839&TYPE=HTML\\_FILE&POS=1](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10086839&TYPE=HTML_FILE&POS=1)〉

・勝本正晃（1895～1993）「ロムルス墓を訪ふ」『法学挿話』（日本評論社、昭和6年10月10日刊）156頁

・『学位大系博士氏名録 昭和七年版』（発展社出版部、昭和6年10月25日刊）「法学博士」3頁には、春木一郎の「現住所」として、「東京市本郷区駒込西片町7」とある。（近代デジタルライブラリー〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉にあり。）（平成24年3月22日追加）

#### 昭和7（1932）年（～9（1934）年）

・「大学教授室」『時事新報』昭和7年1月8日～1月16日（春木博士関係記載あり。）（平成22年10月15日追加）

（神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」：人物伝記（5-002））

〈[http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10086840&TYPE=HTML\\_FILE&POS=1](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10086840&TYPE=HTML_FILE&POS=1)〉

・穂積重遠（1883～1951）編『穂積陳重遺文集』第1冊～第4冊、特に第2冊（岩波書店、第1冊 昭和7年4月5日刊、第2冊 昭和7年12月25日刊、第3冊 昭和9年1月28日刊、第4冊 昭和9年9月20日刊。穂積陳重：1855～1926）

・『東京帝国大学五十年史』上下冊（東京帝国大学、昭和7年11月20日刊）（近代デジタルライブラリー〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉⇒国立国会図書館デジタルコレクション〈<http://dl.ndl.go.jp/>〉にあり。）

・「春木一郎」『帝国大学出身名鑑』（勝田一編）（交友調査会、昭和7年12月10日刊）（ハ67頁）（復刊：『帝国大学出身人名辞典』第3巻（日本図書センター、平成15年3月25日刊）ハ67頁、通頁1401頁）（平成20年8月10日追加）

#### 昭和9（1934）年

・矢田一男（1904～1966）「明治時代のローマ法教育」（1）、（2）完『法学新報』第44巻第3、4号（昭和9年刊）

#### 昭和10（1935）年

・瀧川政次郎（1897～1992）「落魄した一学者」『話』第3巻第1号（昭和10（1935）年1月刊）（西英昭先生「瀧川政次郎の東洋法制史学に関する中間報告」『法政研究』第

91 卷第 3 号（令和 6（2024）年 12 月刊）末尾の【附記】②（261～262 頁）による。令和 6（2024）年 12 月 31 日追加

・報知新聞社編輯局編『大学教授評判記』（河出書房、昭和 10 年 6 月 7 日刊）193 頁（「洒落混ざり講義中田博士」の項（193 頁）中で。近代デジタルライブラリー〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉⇒国立国会図書館デジタルコレクション〈<http://dl.ndl.go.jp/>〉にあり。）（平成 21 年 5 月 15 日追加）

#### 昭和 14（1939）年

・矢田一男（1904～1966）「明治以来ローマ法源邦訳事歴」（1）～（4）完『法学新報』第 49 卷第 6、8、10、12 号（昭和 14 年刊）

・矢田一男訳『ユースティアーニアーヌス帝法学撮要』（巖翠堂書店、昭和 14 年 12 月 5 日刊）

#### 昭和 17（1942）年

・原田慶吉（1903～1950）「我が国に於ける外国法史学の発達」『東京帝国大学学術大鑑（法学部・経済学部）』（東京帝国大学、昭和 17 年 4 月 13 日刊）294-307 頁

〈<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1879592>〉（国立国会図書館デジタルコレクション）  
〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/data/HARADA007.html>〉（令和 5（2023）年 12 月 31 日閉館）

#### 昭和 18（1943）年

・『京都帝国大学史』（京都帝国大学、昭和 18 年 12 月 20 日刊）（203 頁以下。近代デジタルライブラリー〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉⇒国立国会図書館デジタルコレクション〈<http://dl.ndl.go.jp/>〉にあり。）

#### 昭和 19（1944）年

・山田三良（1869～1965）「故会員春木一郎君略歴」『帝国学士院紀事』第 3 卷第 2 号（昭和 19 年 7 月刊）（後に、日本学士院『学問の山なみ 第二』（昭和 55 年 3 月 15 日刊）164 頁に再録。）

#### 昭和 24（1949）年

・原田慶吉（1903～1950）『ローマ法』（上巻 有斐閣、昭和 24 年 4 月 20 日刊、下巻 5 月 20 日刊、改訂版（上、下合本）昭和 30 年 11 月 30 日刊）⇒オンデマンド版（平成 13（2001）年 8 月オンデマンド対応）

〈<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641901198>〉（平成 25 年 4 月 1 日一部補正）

#### 昭和 28（1953）年

・我妻栄（1897～1973）「論文と講義案」『ジュリスト』第 33 号（昭和 28 年 5 月 15 日号）（後に、『身边随想—身边雑記（2）—』（有斐閣、昭和 38 年 8 月 30 日刊）12 頁以下に再録。）

・我妻栄「アカデミッシャー・フィーアテル」『ジュリスト』第 35 号（昭和 28 年 6 月 1 日号）（後に、前掲『身边随想—身边雑記（2）—』14 頁以下に再録。）

・勝本正晃（1895～1993）「ローマ法の春木一郎先生—日本の法律学を築いた人々（7）—」『書齋の窓』第 7 号（昭和 28 年 12 月 1 日刊）（後に、同第 296 号（創業百周年記念特集、昭和 52 年 1 月 1 日刊）に再録。）

### 昭和 33 (1958) 年

・船田享二 (1897～1970) 「春木一郎」『世界大百科事典』第 23 卷 (平凡社、昭和 33 年 4 月 25 日刊。1981 年版 (第 25 卷、昭和 56 年 4 月 20 日、141 頁) まであり。)

### 昭和 34 (1959) 年

・武藤智雄 (1899～1962) 「(法史夜話) ロマニストのプロフィール」『法学セミナー』第 36 号 (昭和 34 年 3 月 1 日刊)

### 昭和 36 (1961) 年

・田中耕太郎 (1890～1974) 『私の履歴書』 (春秋社、昭和 36 年 10 月 5 日刊) 32、35 頁 (20、21 齣) <<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2934949>> (田中耕太郎博士に大正 4～5 (1915～1916) 年頃京大の羅馬法教授就任の話のありし件)

(参考) 後掲末川博 (1892～1977) ・我妻栄 (1897～1973) 「対談 日本の法学者を語る・蒲郡対談・連載第 4 回」『法学セミナー』第 179 号 (昭和 46 年 1 月 1 日刊) 67～69 頁 (我妻博士は、大正 3、4 (1914、1915) 年頃義兄の孫田秀春博士 (1886～1976) に京大羅馬法教授の後継者の話があったことを回想しておられる。ただし、孫田秀春『私の一生』 (高文堂出版社、昭和 49 年 8 月 25 日刊) には記載なし。) (令和 4 (2022) 年 7 月 2 日追加)

### 昭和 37 (1962) 年

・「法律学と私—我妻栄先生に聞く・第 2 回—」『法学セミナー』第 70 号 (昭和 37 年 1 月 1 日刊) (「教科書を書く心がまえ—春木一郎先生のこと—」80、81 頁) (後に、我妻栄 (1897～1973) 末川博 (1892～1977) 瀧川幸辰 (1891～1962) [談] 利谷信義 (1932～2019) 乾昭三 (1928～2003) 木村静子 (1927～) 編『法律学と私』 (日本評論社、昭和 42 年 5 月 10 日刊) に収録。「我妻栄先生に聞く」の項: 29～32 頁) (平成 21 年 3 月 3 日追加)

・日本学士院『日本学士院八十年史』 (本編、資料編二) (昭和 37 年 3 月刊)

### 昭和 38 (1963) 年

・吉永榮助 (1912～1998) 「法学博士町田實秀先生—その人と学問—」『一橋論叢』第 49 卷第 3 号 (昭和 38 年 3 月 1 日刊) 295～308 頁 (春木博士関連: 301 頁、町田實秀: 1898～1971) (平成 29 年 11 月 20 日追加)

### 昭和 40 (1965) 年

・佐藤篤士 (1934～2006) 「日本におけるローマ法学の役割—日本におけるローマ法研究の歩みにたいする一つの反省—」『早稲田法学』第 40 卷第 1 号 (昭和 40 年 1 月 20 日刊) 53-99 頁 (佐藤『古代ローマ法の研究』 (敬文堂出版部、昭和 50 年 4 月 25 日刊) に、第 1 章「日本におけるローマ法学の発達—日本におけるローマ法研究の歩みにたいする—反省—」と改題して再録 (1-46 頁) )

< <http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/1829/1/A03890546-00-040010053.pdf> > 参照。(本アドレスのみ平成 20 年 3 月 5 日追加)

### 昭和 41 (1966) 年

・田中誠二 (1898～1994) 「初めて法律を学んだ頃の感想」『一筋の道 —法学者の随想』 (勁草書房、昭和 41 年 3 月 25 日刊) (春木一郎博士関係分: 45、46 頁、初出: 『新法学全集』附属紙、昭和 13 年 10 月 30 日とのこと) (平成 20 年 6 月 26 日追加)

## 昭和 42 (1967) 年

- ・「名誉教授・法学博士 故矢田一男先生略歴」『法学新報』第 74 巻第 2・3 号（昭和 42 年 3 月 15 日刊。矢田一男：1904～1966）
- ・我妻栄 末川博 瀧川幸辰〔談〕 利谷信義 乾昭三 木村静子編『法律学と私』（日本評論社、昭和 42 年 5 月 10 日刊）（「我妻栄先生に聞く」の項：29～32 頁。我妻栄：1897～1973、末川博：1892～1977、瀧川幸辰：1891～1962、利谷信義：1932～2019、乾昭三：1928～2003、木村静子：1927～）（初出：『法学セミナー』第 70 号（昭和 37 年 1 月号（昭和 37 年 1 月 1 日刊）80、81 頁等）（平成 21 年 3 月 3 日追加）
- ・仁井田陞（1904～1966）「5 研究三十五年の回顧」『中国の法と社会と歴史』（岩波書店、昭和 42 年 6 月 21 日刊）154 頁（令和 3 年 1 月 20 日追加）
- ・『京都大学七十年史』（京都大学、昭和 42 年 11 月 3 日刊）  
〈<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9581721>〉（平成 19 年 11 月 27 日追加、平成 20 年 3 月 27 日、令和 4（2022）年 7 月 2 日各修正）
- ・隈崎渡（1897～1975）「矢田一男博士の逝去を悼む」『法制史研究 17（1967）』（昭和 42 年 10 月 20 日刊。矢田一男：1904～1966）

## 昭和 44 (1969) 年

- ・『思いで草 京都大学経済学部創立五十年記念』（京都京都大学経済学部、昭和 44 年 7 月 10 日刊）109 頁（小島昌太郎（1888～1978）の巻、109 頁、京都法科大学における春木博士の英法講義の件）（平成 21 年 6 月 4 日追加、同年 6 月 13 日補正）

## 昭和 45 (1970) 年

- ・佐藤篤士（1934～2006）「春木一郎」『ジャポニカ』第 18 巻（小学館、昭和 45 年 12 月 10 日刊。新版：昭和 56 年 4 月 20 日刊 368 頁）
- ・平野義太郎（1897～1980）『民法におけるローマ思想とゲルマン思想〔増補新版〕』（有斐閣、昭和 45 年 10 月 15 日刊。初版：有斐閣、大正 13（1924）年 7 月 25 日刊）（邦訳：「ガーイウス羅馬法解説」（末松謙澄（1855～1920）訳、宮崎道三郎（1855～1928）校閲、穂積陳重（1855～1926）序、帝国学士院蔵版、有斐閣、大正 4 年、同 6 年訂正増補）、『ユスチニアヌス帝欽定羅馬法学提要』（同上、大正 2 年、同 4 年訂正増補）、『ウルピニアヌス羅馬法範』（同上、大正 4 年、同 6 年訂正増補）、『ユースティニアヌス帝学説彙纂プロータ』（春木一郎訳、有斐閣、昭和 13 年刊）のことを誌し（393 頁）、巻頭にこれらの写真を収める。）
- ・末川博（1892～1977）・我妻栄（1897～1973）「対談日本の法学者を語る・蒲郡対談第 2 回」『法学セミナー』第 177 号（昭和 45 年 11 月刊）75～76 頁、「第 4 回」『法学セミナー』第 179 号（昭和 46 年 1 月 1 日刊）67～69 頁
- ・『佐伯好郎遺稿並伝』（佐伯好郎伝記刊行会、昭和 45 年 12 月 25 日刊）（同書所収の佐伯好郎『羅馬法綱要』（昭文堂、昭和 2 年 12 月 8 日刊）自序（837～839 頁）末尾に、同書進呈に対する春木一郎博士の礼状（昭和 2 年 12 月 24 日付）あり（839 頁）。佐伯好郎博士（1871～1965）は、大正 11（1922）年 9 月 1 日より、明治大学法学部講師として、創設の羅馬法講座を担当との由。なお、『佐伯好郎遺稿並伝』は、大空社の伝記叢書 221、222 で復刻（平成 8 年 7 月刊）（平成 20 年 4 月 7 日追加）

### 昭和 48 (1973) 年

・西本穎 (1904～1982) 「春木一郎博士の学徳を偲んで」『法制史研究 22 (1972)』(昭和 48 年 3 月 30 日刊) 232、233 頁 (昭和 46 年 4 月 5 日法制史学会総会 (於東大) での報告要旨)

### 昭和 51 (1976) 年

・真田芳憲 (1937～2017) 「春木文庫のこと」『学生用 Cul』第 29 号 (昭和 51 年 11 月 8 日刊) (『中央大学図書館史稿 (1963～1998 年度)』(中央大学図書館、平成 15 年 3 月 31 日刊) 265 頁に再録。HP「日本国内の大学図書館関係個人文庫」〈<http://www.fitweb.or.jp/~taka/pcollect.html>〉参照。) (平成 21 年 11 月 17 日追加)

### 昭和 54 (1979) 年

・長尾龍一 (1938～) 「春木一郎」『日本人名大辞典・現代』(平凡社、昭和 54 年 7 月 10 日刊)

### 昭和 55 (1980) 年

・向井健 (1931～2016) 「今月の法律家 春木一郎」『法学セミナー』昭和 55 年 3 月号 (通巻第 301 号) (平成 25 年 8 月 31 日追加)  
・日本学士院『学問の山なみ 第二』(昭和 55 年 3 月 15 日刊)  
・日本学士院『日本学士院小史』(昭和 55 年 3 月 24 日刊)

### 昭和 59 (1984) 年

・潮木守一 (1934～2023) 『京都帝国大学の挑戦—帝国大学史のひとつこま—』(名古屋大学出版会、昭和 59 年 6 月 25 日刊) (後に、増補の上、『京都帝国大学の挑戦』(講談社学術文庫、平成 9 年 9 月 10 日刊) として復刻。) ⇒千朶木仙史編『学界文壇時代之新人』(天地堂、明治 41 年 6 月刊) 281、282 頁 (近代デジタルライブラリー〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉⇒国立国会図書館デジタルコレクション〈<http://dl.ndl.go.jp/>〉) 参照。(平成 25 年 4 月 2 日一部補正)

### 昭和 61 (1986) 年

・東京大学百年史編集委員会編『東京大学百年史 部局史 1』(東京大学出版会、昭和 61 年 3 月 1 日刊) 133、135、142、146、171、173、176、178 頁  
〈[https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/history/03\\_03\\_j.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/history/03_03_j.html)〉 (URL につき令和 2 年 6 月 17 日追加)  
〈[https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_snippet&index\\_id=8329&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page\\_id=28&block\\_id=31](https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=8329&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page_id=28&block_id=31)〉 (URL につき令和 2 年 6 月 17 日追加)

### 昭和 62 (1987) 年

・岩野英夫 (1944～) 「わが国における法史学の歩み (1873—1945) —法制史関連科目担任者の変遷—」『同志社法学』第 39 巻第 1・2 号 (昭和 62 年 7 月刊)  
〈<http://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862>〉、「平成 14 (2002) 年」の項参照。(平成 25 年 2 月 5 日一部補正)

### 昭和 63 (1988) 年

・佐藤篤士 (1934～2006) 「春木一郎」『日本大百科全書』第 19 巻 (小学館、昭和 63

年 1 月 1 日刊。第 2 版、平成 14 年 1 月 20 日刊〈159 頁〉)

・京都大学創立九十周年記念協力出版委員会編『京大史記』（出版協力 六甲出版、昭和 63 年 8 月 20 日刊）（「(本紀編) 図録京大九十年」52 頁掲載の「法科大学時代の教授陣」は、前掲『京都帝国大学法科大学教室新築落成記念 [ママ] 講演集』〈『法律学 経済学 内外論叢』臨時増刊、宝文館、明治 36 年 11 月 5 日刊〉巻頭記念集合写真〈千賀鶴太郎教授、春木一郎教授等当時の全教官〉の再録である。ただし、『京大史記』掲載写真には個人名の記載は省略されている。）（平成 25 年 6 月 6 日追加）

#### 平成元（1989）年

・穂積重行（1921～2014）編『穂積歌子日記—明治—法学者の周辺—』（みすず書房、平成元年 12 月 15 日刊。穂積歌子：1863～1932）

#### 平成 9（1997）年

・『京都大学百年史 部局史編 1』（京都大学後援会、平成 9 年 9 月 30 日刊）312、313 頁〈<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/152877>〉  
（平成 25 年 2 月 5 日一部補正）

#### 平成 14（2002）年

・研究代表者岩野英夫（1944～）『法学教育における法史学の存在価値—わが国における法史学の成立と展開との関連で—』平成 11 年度—平成 13 年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告 3 月刊（註：これには、前記岩野英夫「わが国における法史学の歩み（1873—1945）—法制史関連科目担任者の変遷—」〈註：昭和 62 年 7 月刊〉の修正版が収録されている。）

（参考）〈<http://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862>〉、「昭和 62（1987）年」の項参照。

#### 平成 15（2003）年

・「春木一郎」『帝国大学出身人名辞典』第 3 卷（日本図書センター、平成 15 年 3 月 25 日刊）（ハ 67 頁、通頁 1401 頁。初出：『帝国大学出身名鑑』（勝田一編。交友調査会、昭和 7 年 12 月 10 日刊、ハ 67 頁〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1465969>〉）（平成 20 年 8 月 10 日追加、令和 6（2024）年 3 月 17 日 URL 追加）

#### 平成 16（2004）年

・戸水寛人（1861～1935）講述『羅馬法 完』（日本立法資料全集 別巻 328）（信山社出版、平成 16 年 12 月 15 日刊）  
〈<https://www.shinzansha.co.jp/book/b188169.html>〉

#### 平成 17（2005）年

・菅原憲二（1947～）・飯塚一幸（1958～）・西山伸（1963～）『田中秀央 近代西洋学の黎明—『憶い出の記』を中心に』（京都大学学術出版会、平成 17 年 3 月 25 日刊。田中秀央（ひでなか）：1886～1974）124、131、132、266、305～311、340、341、346、347 頁（平成 21 年 7 月 13 日追加）

#### 平成 19（2007）年

・長尾龍一（1938～）「宮崎道三郎の法史学」『日本大学史紀要』第 10 号（平成 19 年 10 月刊）1～31 頁 ⇒（下記 HP 参照。公開年月日不明）⇒同『法学に遊ぶ 新版』（慈学社出版、平成 21 年 10 月 10 日刊）255～286 頁に収録（同書初版『法学に遊ぶ 落語から法

哲学へ』(日本評論社、平成4年3月1刊)にはなし。)

〈[http://book.geocities.jp/ruichi\\_nagao/miyazakimitisaburou.html](http://book.geocities.jp/ruichi_nagao/miyazakimitisaburou.html)〉

(平成25年5月29日追加)

その後平成31(2019)年初め頃下記に移転か。(令和元年5月10日追加)

〈<http://ouranos2.web.fc2.com/>〉

〈[http://ouranos2.web.fc2.com/1C\\_FOLDER.html](http://ouranos2.web.fc2.com/1C_FOLDER.html)〉

〈<http://ouranos2.web.fc2.com/miyazakimitisaburou.html>〉

### 平成25(2013)年

・CD版『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録—日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録(新訂版)—一ローマ法・法制史学者著作目録選(第十輯)—』(平成25(2013)年9月1日刊。既刊第七輯、第九輯の改訂合体版。ただし冊子版は作成できずCD版のみあり。)(平成29年11月20日追加)

### 平成28(2016)年

・京都大学大学文書館「教員履歴データベース(京都大学歴代総長・教授・助教授履歴検索システム—対象:1949年以前の在職者[旧制]—)」参照。(平成29年11月20日追加)

〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/>〉

「春木一郎」〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000766>〉

(更新日:2016/8/31、システム管理番号000766)

### 平成30(2018)年

・『CD版ローマ法、法制史、明治警察史及び日本統治下台湾警察史の諸問題—ローマ法・法制史学者著作目録選(第十三輯)—一明治警察史雑纂(第四輯)—一日本統治下台湾警察史雑纂(第八輯)—』(平成30(2018)年1月1日刊)に五訂稿を収録。(令和元年5月10日追加)

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・吉原達也「穂積陳重のローマ法講義について」『日本法学』第84巻第1号(平成30年6月30日刊)1~51頁(穂積陳重:1855~1926)(令和3年1月20日追加)

〈[https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law84\\_1.pdf](https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law84_1.pdf)〉

(参考)・小野翠・七戸克彦「内子町・重岡薫五郎関係資料」『法政研究』第85巻第1号(平成30年7月13日刊)251~307頁(東京大学法学部別課法学科における江木衷(1858~1925)担当「羅馬法講義」〈明治18(1885)年〉関係記載がある。256、281頁)。(令和3年1月20日追加)

〈[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac\\_detail\\_md/?reqCode=frombib&lang=0&amode=MD100000&opkey=B156895559945133&bibid=1957719&start=1](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_detail_md/?reqCode=frombib&lang=0&amode=MD100000&opkey=B156895559945133&bibid=1957719&start=1)〉

・「日本研究のための歴史情報」〈<http://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/>〉(名古屋大学)

(平成30年8月3日「人事興信録データベース」公開〈プレスリリース〉)

〈[http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/researchinfo/upload\\_images/20180806\\_law.pdf](http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/researchinfo/upload_images/20180806_law.pdf)〉(令和2年6月17日追加)

⇒ 「人事興信録データベース」

⇒ <http://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/>

⇒ <http://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who4-1262> (第4版(大正4年1月刊))

⇒ <http://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who8-18266> (第8版(昭和3年7月刊))

・吉原達也「宮崎道三郎博士の講述『比較法制史』について」『日本法学』第84巻第3号(池村正道教授古稀記念号、平成30年12月25日刊)423～451頁(令和3年1月20日追加)

[https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law84\\_3.pdf](https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law84_3.pdf)

平成31(2019)年(～2019年4月30日)

・吉原達也「東京大学草創期におけるローマ法講義—穂積陳重博士・宮崎道三郎博士・戸水寛人博士の場合—」東京大学大学院人文社会系研究科『2014—2018年度他分野交流演習「東京大学草創期の授業再現」報告集』(平成31(2019)年3月刊)219～262頁(令和3年1月20日追加)

<https://ndlonline.ndl.go.jp/#/detail/R300000001-I029775148-00>

・藤野奈津子(報告「明治前期における西洋法史学の成立過程—宮崎道三郎『羅馬法講義』ノートを中心に—」(法制史学会東京部会第274回例会「テーマ：日本における法史研究の歴史」〈下記法制史学会第71回総会〔ミニ・シンポジウム〕準備会との由。平成31年4月13日午後〈土〉、於東京大学東洋文化研究所大会議室)の一つとして)

<https://www.jalha.org/tokyo/> (令和3年11月5日追加)

令和元(2019)年(2019年5月1日～)

・法制史学会第71回総会〔ミニシンポジウム〕「日本における法史研究の歴史」(令和元(2019)年6月8日(土)午後、於神戸学院大学ポートアイランドキャンパス。田口正樹、神野潔、赤城美恵子、藤野奈津子、松沢裕作、大中有信各氏)

・藤野奈津子(報告)「明治前期における西洋法史学の誕生」あり。

<https://www.jalha.org/soukai2/>

<https://www.jalha.org/wordpress/wp-content/uploads/2019/05/71soukai.pdf>

⇒『法制史研究70(2020)』(令和3(2021)年3月30日刊)179～207頁に収録(令和3年11月5日追加)

・吉原達也「宮崎道三郎博士の羅馬法講義について」『日本法学』第85巻第2号(日本大学法学部創設130周年記念号、令和元年9月27日刊)1～30頁(春木一郎博士の宮崎道三郎博士講義筆記録関係)(令和2年6月17日追加)

[https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/law/law\\_85\\_2/each/06.pdf](https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/law/law_85_2/each/06.pdf)

令和2(2020)年

・吉原達也編「(資料)穂積陳重博士『羅馬法講義』総論及び第一編 羅馬法律史」『日本法学』第85巻第3号(令和2年1月31日刊)147～215頁(穂積陳重:1855～1926)(令和3年1月20日追加)

[https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/law/law\\_85\\_3/each/06.pdf](https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/law/law_85_3/each/06.pdf)

・吉原達也「宮崎道三郎博士の独逸法律史講義について」『日本法学』第85巻第4号(南部篤教授退職記念号、令和2年3月27日刊)223～266頁(春木一郎博士の宮崎道三郎博



士講義筆記録関係) (令和 2 年 6 月 17 日追加)

[〈https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/law/law\\_85\\_4/each/13.pdf〉](https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/law/law_85_4/each/13.pdf)

・吉原達也編「(資料) 穂積陳重博士『羅馬法講義』第二編 羅馬法正編第 1 巻及び第 2 巻」『日本法学』第 86 巻第 1 号 (令和 2 年 6 月 26 日刊) 37~125 頁 (穂積陳重: 1855~1926) (令和 3 年 1 月 20 日追加)

[〈https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/law/law\\_86\\_1/each/04.pdf〉](https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/law/law_86_1/each/04.pdf)

### 令和 3 (2021) 年

・藤野奈津子「明治前期における西洋法史学の誕生」『法制史研究 70 (2020)』(令和 3 (2021) 年 3 月 30 日刊) 179~207 頁 (令和 3 年 11 月 5 日追加)

・林智良「(書評) 吉原達也編「宮崎道三郎博士講述『比較法制史』第二部 独逸法制史」(『日本法学』85-1) 同著「宮崎道三郎博士の羅馬法講義について」(『日本法学』85-2)」『法制史研究 70 (2020)』(令和 3 (2021) 年 3 月 30 日刊) 417~420 頁 (令和 3 年 11 月 5 日追加)

### 令和 4 (2022) 年

・佐藤団「西本頼と黎明期の西洋法制史学」(一)、(二)・完『法学論叢』第 190 巻第 4、5 号 (令和 4 (2022) 年 1、2 月刊) (令和 4 (2022) 年 7 月 2 日追加)

・『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十五輯) —』(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊) (令和 4 (2022) 年 7 月 2 日追加)

### 令和 5 (2023) 年

・北康宏 (1968~)『中田薫』(人物叢書、吉川弘文館、令和 5 (2023) 年 8 月 1 日刊) 139、140、152、207、218 頁 [〈http://www.yoshikawa-k.co.jp/book/b626819.html〉](http://www.yoshikawa-k.co.jp/book/b626819.html)

(令和 5 (2023) 年 7 月 18 日追加)

### 令和 6 (2024) 年

・『CD 版 上山安敏先生・柴田光蔵先生・西村稔先生・宮崎道三郎博士・池辺義象氏・小林宏先生・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士略年譜・著作目録 附録: 「日本ローマ法・法制史学者等略年譜・著作目録・追悼辞」掲載資料抄 (追補) 中田薫博士・瀧川政次郎博士・三浦周行博士・牧健二博士各関係資料抄 —ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十六輯) —』(CD 版、令和 6 (2024) 年 1 月 1 日刊)

[〈https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033346841〉](https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033346841)

(令和 6 (2024) 年 3 月 17 日追加)

・(報告) 宮坂渉 (1977~) 「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究——田中周友と原田慶吉」(2024 年年 4 月 20 日 (土) 法制史学会東京部会第 287 回例会。貴重な資料あり。)

(参考)

[〈https://www.jalha.org/tokyo/%e6%b3%95%e5%88%b6%e5%8f%b2%e5%ad%a6%e4%bc%9a%e6%9d%b1%e4%ba%ac%e9%83%a8%e4%bc%9a%e7%ac%ac287%e5%9b%9e%e4%be%8b%e4%bc%9a%e3%81%ae%e3%81%94%e6%a1%88%e5%86%85/〉](https://www.jalha.org/tokyo/%e6%b3%95%e5%88%b6%e5%8f%b2%e5%ad%a6%e4%bc%9a%e6%9d%b1%e4%ba%ac%e9%83%a8%e4%bc%9a%e7%ac%ac287%e5%9b%9e%e4%be%8b%e4%bc%9a%e3%81%ae%e3%81%94%e6%a1%88%e5%86%85/)

法制史学会 東京部会 法制史学会東京部会第 287 回例会のご案内 (2024 年 3 月 14 日)

(中略)

〈日時〉 2024 年 4 月 20 日 (土) 13:30～ (17:30 終了予定)

〈場所〉 ① 実地会場 : 中央大学茗荷谷キャンパス 3E09 教室(予定)

(東京都文京区大塚 1-4-1 (東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅徒歩 1 分)

〈<https://www.chuo-u.ac.jp/access/myogadani/>〉

② オンライン : ウェブ会議システム Webex (Cisco Webex Meetings) を利用

【ミニ・シンポジウム「日本における法史研究の歴史 (2) : 1920-1945/50 年」準備会】

13:30-13:40 趣旨説明 (田口正樹: 東京大学法学政治学研究科教授)

13:40-14:15 「戦時期の日本法制史学と「固有法」の諸相」 (小石川裕介: 関西大学法学部准教授)

14:15-14:50 「黎明期における東洋法制史の担い手——内田智雄を例として」 (鈴木秀光: 京都大学法学研究科教授)

14:50-15:05 休憩

15:05-15:40 「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究——田中周友と原田慶吉」 (宮坂渉: 筑波大学人文社会系准教授)

15:40-15:55 コメント 1 (駒込武: 京都大学教育学研究科教授)

15:55-16:10 コメント 2 (水津太郎: 東京大学法学政治学研究科教授)

16:10-16:25 休憩

16:25-17:30 質疑応答

(令和 6 (2024) 年 6 月 7 日追加)

・ (報告) 宮坂渉 (1977～) 「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究 一田中周友と原田慶吉」

(2024 年 5 月 26 日 (日) 法制史学会第 75 回総会。貴重な資料あり。)

(参考)

〈<https://www.jalha.org/wordpress/wp-content/uploads/2024/03/ca5c17ada0f4efae565d7de5659ff172.pdf>〉

〈<https://www.jalha.org/soukai2/>〉

〈<https://www.jalha.org/soukai2/%e3%80%90hp%e6%8e%b2%e8%bc%89%e7%89%88%e3%80%91%e6%b3%95%e5%88%b6%e5%8f%b2%e5%ad%a6%e4%bc%9a%e7%ac%ac75%e5%9b%9e%e7%b7%8f%e4%bc%9a%e6%a1%88%e5%86%85%e7%8a%b6/>〉

法制史学会第 75 回総会のご案内

春陽の候、会員のみなさまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて法制史学会第 75 回総会 (共催: 大阪大学大学院法学研究科) は、対面方式で開催いたします。対面のみでの開催は 2019 年の第 71 回総会以来ですので、奮ってご参加ください。(以下中略)

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-6 大阪大学大学院法学研究科内

法制史学会第 75 回総会準備委員会 (代表: 林智良)

E-mail: [jalha-75-colloquium@office.osaka-u.ac.jp](mailto:jalha-75-colloquium@office.osaka-u.ac.jp)

2 総会プログラム

第1日 5月25日（土）（以下中略）

第2日 5月26日（日）

9:30～12:30

〔ミニ・シンポジウム2〕「日本における法史研究の歴史（2）：1920-1945/50年」

9:30～9:40 「趣旨説明」

田口正樹（東京大学）

9:40～10:15 「戦時期の日本法制史学と『固有法』の諸相」

小石川裕介（関西大学）

10:15～10:50 「黎明期における東洋法制史の担い手—内田智雄を例として」

鈴木秀光（京都大学）

10:50～11:05

休憩

11:05～11:40 「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究—田中周友と原田慶吉」

宮坂渉（筑波大学）

11:40～12:30 質疑応答

（以下中略）

（令和6（2024）年6月7日追加）

・西英昭「瀧川政次郎の東洋法制史学に関する中間報告」『法政研究』第91巻第3号（令和6（2024）年12月刊）（同稿末尾の【附記】②（261～262頁）に瀧川政次郎博士「落魄した一学者」『話』第3巻第1号（昭和10（1935）年1月刊）関連記載あり。）

（令和6（2024）年12月31日追加）

#### （調査中）

①『日本人名情報総覧』（第1期、全5巻）（日本図書センター、平成14年5月刊）

#### （参考）

・父春木義彰（1846～1904.12.17）について、『日本人名大辞典（新撰大人名辞典）第5巻』（平凡社、昭和13（1938）年3月5日初版第1刷、昭和54（1979）年覆刻版第1刷）、宮崎十三八、安岡昭男編『幕末維新人名辞典』（新人物往来社、平成6（1994）年2月20日刊）、安在邦夫「春木義彰」『日本近現代人名辞典』（吉川弘文館、平成13年7月20日刊）、当時の『人事興信録』等各参照。

・春木博士が春木義彰の養子という説もあるがはっきりしない（例えば、勝本正晃前掲「ローマ法の春木一郎先生—日本の法律学を築いた人々（7）—」『書齋の窓』第7号（昭和28年12月1日刊。後に、同第296号（創業百周年記念特集、昭和52年1月1日刊）に再録。）参照、第296号では63頁。菅原憲二・飯塚一幸・西山 伸前掲『田中秀央 近代西洋学の黎明—『憶い出の記』を中心に』（京都大学学術出版会、平成17年3月25日刊）305頁等）。（平成25年7月26日一部補正）

（下記：平成25年6月13日、7月19日追加）

〈<http://kotobank.jp/word/%E6%98%A5%E6%9C%A8%E7%BE%A9%E5%BD%B0>〉

<<http://meiji-ishin.com/haruki.html>>

<<http://kotobank.jp/word/%E6%98%A5%E6%9C%A8%E4%B8%80%E9%83%8E>>

## (10) インターネット関係

・「春木一郎電子文庫」を有する和田徹氏のホームページ「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（旧館は、平成13年11月11日開設、同15年5月10日閉鎖、新館に移転。）が公開されているが、同電子文庫は、過去には時折閉鎖される場合があった。しかるに、近年はネット環境もよくなり、問題が既に解消されていることを附記しておく。

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉

⇒同サイトは令和5（2023）年12月31日閉館（令和6（2024）年3月17日追加）

⇒同サイトは令和6（2024）年6月5日再開（公開公表日）

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/>〉（令和6（2024）年6月7日追加）

・「名墓録」2095 春木一郎（谷中霊園乙5-1）（平成21年3月3日追加）

〈<http://www.hugyou.jp/meibo/index.cgi?acto=find2&cond=and&word=%83C%83%60%83%8D%83E>〉

・「有名人、著名人のお墓案内」（平成21年3月3日追加）

〈<http://www.kokohe.com/info01/tky-taito07.html>〉

・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー（令和4（2022）年4月1日追加）

〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉（これで再検索の要あり。）

（了）